



埼玉県舞踊協会
NO.40

埼玉県舞踊協会ニュース

Saitama Dance Association

発行所：埼玉県舞踊協会
発行者：中村 友美
埼玉県さいたま市浦和区東仲町 1-16 鳥昇ビル 3F
TEL:048-882-7530 FAX:048-882-7549

伸びゆく彩の国さいたまの子どもたちによる

第49回 バレエ・モダンダンス・フェスティバル

(会場)川口リリアメインホール(入場無料)
(月日)2016年3月6日(日)

①第49回全国舞踊コンクール上上入賞者(2歳・3歳・4歳・5歳) ⑧マヤバレエスタジオ(原島マヤ)
②和加枝舞踊研究所(小林和加枝) ⑨中村友美・上田仁美モダンバレエスタジオ
③藤井・上原舞踊研究所(藤井 香・上原尚美) ⑩川名今朝美モダンバレエスタジオ
④室内納子モダンバレエスタジオ ⑪バレエ団ピッコロ(松崎すみ子)
⑤バレエスタジオ ル・シエル(伊藤一枝) ⑫谷 乃梨絵モダンダンススタジオ
⑥吉田久木子モダンバレエ研究所 ⑬すまきよこモダンバレエ教室
⑦細川初枝モダンバレエスタジオ (出演順)

「Fujisaku」
埼玉県舞踊協会会長 中村友美

自然災害が多発したこの秋、被害を受けた方々の御苦勞のニュースを見る度何かお役に立つことをせねばと胸が痛みます。TVに流れた研究者の説によると4000年ごとに訪れる現象の年とか、防災についてしっかりと認識し準備せねばなりません。

埼玉県舞踊協会は猛暑の中(8/22~29)埼玉県並びさいたま市関係他、多くの方々のご支援御協力により第48回埼玉全国舞踊コンクールを無事成功裡に終え、秋の恒例であるステージワン公演を9/19・20(土・日)の国さいたま芸術劇場小ホールにて若い力の創作と演技の結集で好評に終えることが出来ました。10/11(日)地域住民との文化交流を目的にジュニアバレエフェスタをさいたま市文化センターのご協力でホール前の広場で開催致します。11/1(日)には狂言とのコラボレーションによるコレオグラフィの目vol.14足袋「草・くさむすび」をいしがや能楽堂にて開催致します。同じく11/1(日)2005国民文化祭がこしまに、協会員応募から選ばれた若野信子作品「Window」が参加致します。新鋭中堅の協会員、理事等が担当し活躍致します。

芸術の秋、協会員の皆様には各地域に於ける文化祭等々活躍の場が多数あると思います。チャンスを見逃さず是非、地域文化活動に参加なさってバレエ・モダンダンスの芸術性を発表なさってください。

皆様の今後の御活躍ご発展を期待し祈念申し上げ、ごあいさつと致します。

第48回 埼玉全国舞踊コンクール

2015年7月22日(水)~29日(水)
さいたま市文化センター 大ホール・小ホール

主催◎埼玉県舞踊協会 共催◎(公財)さいたま市文化振興事業団
後援◎埼玉県/埼玉県議会/埼玉県教育委員会/(一社)埼玉県文化団体連合会/
朝日新聞さいたま総局/埼玉新聞社/東京新聞/毎日新聞さいたま支局/
読売新聞さいたま支局/テレビ埼玉/チャコット株/(一社)現代舞踊協会/
(公社)日本バレエ協会/(公財)橘秋子記念財団



クラシックバレエ

第1位 埼玉県舞踊協会賞・県知事賞
橘秋子賞・津田節子賞(公社)日本バレエ協会賞
第2位の1 埼玉県舞踊協会賞・県議会議長賞
第2位の2 埼玉県舞踊協会賞・県教育長賞
第3位の1 埼玉県舞踊協会賞
県文化団体連合会会長賞
第3位の2 埼玉県舞踊協会賞
県文化団体連合会会長賞
第3位の3 埼玉県舞踊協会賞
県文化団体連合会会長賞
朝日新聞社賞
埼玉新聞社賞
テレビ埼玉賞
東京新聞賞
毎日新聞社賞
読売新聞社賞
チャコット賞

縄田花怜
澤野 葵
宇田美久
松浦祐磨
山本涼杏
中島 耀
布瀬川桃子
岡田紗綾
長澤愛華
松丸更紗
堀内文音
石原璃子
山内彩未

クラシックバレエ 2部 (児童)

歴史のあるこのコンクールでこのような賞を頂くことができるともうれいいます。先づ、私を支えてくれた方々に感謝をし、これからも努力してがんばっていきたくです。ありがとうございました。

クラシックバレエ ジュニアの部

第1位 埼玉県舞踊協会賞・県知事賞
橘秋子賞・津田節子賞(公社)日本バレエ協会賞
第2位の1 埼玉県舞踊協会賞・県議会議長賞
第2位の2 埼玉県舞踊協会賞・県教育長賞
第3位の1 埼玉県舞踊協会賞
県文化団体連合会会長賞
第3位の2 埼玉県舞踊協会賞
県文化団体連合会会長賞
第3位の3 埼玉県舞踊協会賞
県文化団体連合会会長賞
朝日新聞社賞
埼玉新聞社賞
テレビ埼玉賞
東京新聞賞
毎日新聞社賞
読売新聞社賞
チャコット賞

宮原詩音
吉江絵璃奈
竹津菜奈
石川ひなの
長谷川華
増原 聖
田代華梨
廣本袖帆
小笠原祥真
山西美那
利田有咲
千野円句
深津安優果

歸りの新幹線の中で1位を受賞したと連絡を受けたとき、とても驚きました。時間が経つにつれて嬉しい気持ちでいっぱいになりました。指導して下さった先生やサポートしてくれた家族にとっても感謝しています。

クラシックバレエ 1部 (成人)

第1位 埼玉県舞踊協会賞・県知事賞
橘秋子賞・津田節子賞(公社)日本バレエ協会賞
第2位の1 埼玉県舞踊協会賞・県議会議長賞
第2位の2 埼玉県舞踊協会賞・県教育長賞
第3位の1 埼玉県舞踊協会賞
県文化団体連合会会長賞
第3位の2 埼玉県舞踊協会賞
県文化団体連合会会長賞
第3位の3 埼玉県舞踊協会賞
県文化団体連合会会長賞
朝日新聞社賞
埼玉新聞社賞
テレビ埼玉賞
東京新聞賞
毎日新聞社賞
読売新聞社賞
チャコット賞

皆川七海
西田悠乃
田代幸恵
石原朱莉
大塚 卓
菊池彩美
水友香里
齋藤香蓮
佐藤優美
金子真也
庭 秀美
山田若葉
松本美樹

伝統あるこのコンクールで1位をいただき大変光栄です。今回の受賞を糧にして、舞台上で輝くダンサーになるために、これからも日々努力していきたくと思います。

評
クラシックバレエ 2部
舞踊評論家 林 愛子

ひとたび舞台に立つたなら、誰の手助けもな、これまでのレッスンで重ねてきた成果を得るために、たった一人で踊る。大人でも容易でないのに、児童という年齢の方がヴァリエーションを見せられるコンクール。その表現意欲と集中力の高さは感銘を受けます。今年(2015)の夏には、初めて第48回埼玉全国舞踊コンクールにおけるクラシックバレエ児童の部の決選審査に参加させていただきました。

この伝統あるコンクールの決選審査は、感じ入ったのは、出場者の皆さんがきれいな首のライン、しなやかな四肢の持ち主であること。その皆さんのほとんどがそれぞれ作品に役柄の特徴を身体表現も豊かに一生懸命をうとしていたことでした。

本来なら、幕をおして作品全体の流れのなかでの役柄を表現して踊られるものですが、この見せ場のヴァリエーションだけを抜き出して踊る方が公演やコンクールでは、プロフェッショナルのダンサーでもかなりの集中力を必要とするといわれます。たとえば、「白鳥の湖のオティールのヴァリエーション」なら王子を誘惑する妖しさや強さを、「アルレキナー」なら自ら自づと明るさを、「ワグネル」なら恥じらいと可憐さを、「眠れる森の美女」なら第一幕の初々しいオーロラ姫と第三幕の結婚式で

の自信に満ちたオーロラ姫といつたぐあいに、テクニクと同時に役柄の解釈も打ち出さなければならぬからでしょう。

音楽によって人間の感情や考えを表現するオペラやシンフォニー、台詞という言語を用いて人間の心や思想を表現する演劇の音楽と演劇の両方の要素をもつバレエやモダンダンスはなんと素晴らしい表現芸術でしょうか。音楽も演劇も舞台にかけられるようになるまでには、そうとうの時間を要しますが、バレエもまたテクニクの習得にかなりの時間を積み上げなければなりません。そして素晴らしいことに、それは指導の先生方と生徒さんとの深いコミュニケーションのたまに成り立っています。

パノニヤやスマホなどすぐに答えが得られるとは、筆者の子供時代には考えられなかったほど、より効率的により早く結果を出そうという風潮が強くなり、待つこと相手の顔を見て話すのが苦手な若者も増えていくといわれます。そんな時代の傾向とは反対のところにあるバレエを見てみると、ほとんどの場合、継続と力なりという言葉の重みを改めて噛み締めている次第です。

評
クラシックバレエ ジュニアの部
舞踊評論家 伊地知優子

筆者が審査に参加したクラシックジュニア部門(中学・年・高校・年)は、予選を勝ち抜いた170名が決勝に進出しました。

第48回という老舗のコンクールは、基礎技術の習得に10年かかるというクラシックバレエの中でも、ジュニアの年齢層は、特に技術面が伸び盛りの時です。子どもから大人へと変化する体型と共に関節と機能も変化していきます。内面の成長も著しい時期です。本人も指導者も体調の変化に気が付かず調整に手間取ることもあります。コンクール出場の数か月前には作品の稽古に入っているでしょうが、本番までのわずかな半年ほどの稽古の仕方、ぐっと伸びる人と壁にぶつかるとあるいは守りに終始する人との違いも出てきます。それを見越した演目選びも指導者の大切な仕事といえるでしょう。

この年齢層でこそ出せる味わいを大切にすれば、完成された大人の魅力をはいくら上手い子どもが踊っても、表現すべき人物像には届きません。子どもが望ましい成長のあり方だと思います。たまにフコ顔負けの技術力の子がいますが、その上手さは役柄の表現を導き出すためのものではありません。技術力を見せるために難しい役を踊るのではなく、ジュニアでその少女の魅力や若さを生かした美しさや力強さ、あるいは脆さや弱さなど、若者特有の内面性をいかに追求できるかがポイントです。ですから、オーロラなら3幕ではなく1幕を選んで16歳の無垢な少女を最も魅力的に踊る人を見たいですし、オティールやエスメラルダの色気は「大人」を見せられる将来の役とし、今は、たとえば若

者の輝きが魅力になるキトリやスワニールのような娘なら、大人の雰囲気を作り出す必要はありませんし、金髪を洗練された砂糖菓子にすることも出来ます。もちろん成長と力量の個人差による例外はありますが、今回さすがに上位入賞者たちはプロ予備軍といえる力量の持ち主で、なかでも内から溢れ出るような女の情感を歌い上げた「ガムザッティ」の竹津菜奈は、演技ではなくバレエの動きそのもので見事に人物を描写した点で、バレエ芸術の到達点をゆく将来が期待されます。

コンクールの順位は、100点満点の1点から0点までの差で決まらまらまらまらまら、実際はほとんど差のない相手か前後にぞろぞろ連なっているといえます。上位5~6番以内とか10番以内くらいの大雑把なとらえ方で気持ちに余裕をもつて見つけるのもいいと思います。

評
クラシックバレエ 1部
舞踊評論家 うらまこと

「ベストシックス」を中心とした上位陣」

第48回を迎えた埼玉全国舞踊コンクール。わが国で2番目に長い歴史をもつ舞踊コンクールです。埼玉のコンクールは埼玉舞踊協会、つまり地元舞踊者たちがいろいろと努力して立ち上げ、工夫して練り上げてきたものです。

したがって、手作りの良さを生かしつつ、しかしレベル的には多くのコンクールの頂点にたつ、わが国を代表するコンクールの1つとなつていきます。

増加するコンクール、少子化などいろいろな理由により、このコンクールも参加者は減少傾向にありますが、平均的レベルはむしろ高くなつています。

クラシックバレエ1部、成人の部は、参加者84名、この人数は他の多くのコンクールに比べて多く、そのなかでの決選進出者50名、過半数が進出しているにもかかわらず、ほとんどが基礎、技術も一定のレベルを超えています。

第1位から第3位の3まで上位6人は、具体的な順位は別にしてベストシックスといつて良いと思います。とくに1位の皆川七海(ワグネル)は、スタイルのバランスもよく、身体を大きく使いつながら爪先の動きは繊細で、とても目を惹きました。2位の1と2の西田悠乃と田代幸恵はともにオーロラの1幕、技術の高さを印象つけた西田、全体のまとまりに留意した田代と、対照的に興味をもてました。優れたジェゼルが多かつた中で、とくに3位の1の石原朱莉は緩急巧みに役の雰囲気を表現、あとは佐藤優美や山田若葉など、パキータのエトワールも成人に向いた作品ですが、菊池彩美(3位)は魅力的なプロポーションを生かしてアビール、やや下位でしたが、坂本菜々、郷翠もすつかり、上位6人に続くガムザッティの水友香里も伸び伸びとした柔らかな動きで、同じく海賊の齋藤香蓮も同等の力。他

埼玉県民芸術文化祭 2016 参加

第49回 埼玉全国舞踊コンクール2016

(会場)さいたま市文化センター 大ホール・小ホール(入場無料)
(日時)2016年7月21日(木)~28日(木)
(主催)埼玉県舞踊協会(共催)(公財)さいたま市文化振興事業団

コンクールへの参加はホームページからのみ受付いたします
【埼玉県舞踊協会ホームページ】
<http://www.saitamaken-buyoukyokai.jp>
※注意事項をよく見てお間違えのないようお申し込み下さい。
沢山の方々のご参加お待ちしております。

評 モダンダンス 2部

舞踊評論家 門行人

今回、モダンダンス2部の審査を務めるにあたり、率直に言って水準を危惧していた。モダンダンス部門の審査員を務める批評家は、本欄で毎年のように「作品が類型的だ」「技術偏重だ」と非を鳴らしている。コンクールを見るに、私は類型的な感じを抱くのが常だ。だが今回は、思ったよりも生き生きと躍動している参加者が大半で、ほとんども胸をなで下した。

とはいえ、それも程度問題で、例年の不評にも「理あり」と感じる部分は、特に、導入はよくても途中から情性に流れる作品が少なくない。習熟度の関係で使える語彙が限られるため、似たフレーズの繰り返しが目立ちがちなのだろう。

「類型的」だと言いがいけぬのか。作品の芸術性を競うわけではない。踊り手を評価できれば用は足りている、とも考えられる。一つ言えるのは、類型的な動きは踊り手の外部にあるため、踊り手が振付を「なぞって」しまいがちになることだ。いきおい、評価も低くなる。

類型的な動きに生命を吹き込むのも職業的には大事なスキルだが、コンクールは、その能力を示す場として「なぞり」をしないように表現を遂行するのを見せたい。外部から押しつけられたよき表現をな

く、体にストンと落ちて自分の中から出てくる表現で、可能性の深さを示してほしい。難しい要求ではない。踊り手が最も躍るような踊り方、見せ方を提示すればいいだけだ。近くで見ている指導者が最もよく知っているはずのことだ。技術的優秀はその過程で自然と見えてきてしまってもいい。ワザだけを個別に見せる必要はない。

審査に際しては技術と表現の両方が問われる。無理のない体使いをして、きつりと踊っていたり、床をしっかりと捉えたりといった点は基礎量として大切だ。また振り付けや作品のリアリティを高めるには、アーティストとして飛躍するには欠かせない。その技術と表現力は不可分である。創作や振付を競う部ではないが、参加者の資質ならびに個性と作品の主題やモチーフが一体となり、技術と表現が分かち難く結び付いたものが上位に入ったと私は思う。何人もの将来が楽しみな人たちに会えたことは喜ばしく審査員冥利に尽きる。

日本を代表する舞踊家の登壇であり続ける。故・藤井公先生をはじめとする埼玉舞踊協会の先づきの足跡を、この舞踊家審査員は歴史を刻み、批評家も初めて審査を受けた2年前以降でいはいは前見識を持ち、持続的に活躍し、審査経験も豊富で、格調の高さと舞踊を深く愛する人々が関わっていることを誇りたい。再来年に50回目を迎える。今回の参加者の方々が埼玉舞踊協会コンクールを通じて、さらなる研鑽を積み、未来へ向けて羽ばたいてくれることを願うばかりだ。

ことは想像に難くない。それでもなお、私達の気配よりも、私の存在が前面に出た作品に出会うことができた。何歳であつても踊りはできるし、そのときに相応しい表現をするのができる。だからこそ、心身が成長する時期を経たダンサーの演技は、一人の人間としての経験を積むことの大切さを改めて感じた。モダンダンスの審査をする毎に考えたい。はいられない事情が、今回も頭を打った。すなわち、モダンダンスとは固有の技法と様式を備えた、固有のジャンルなのか、という問題である。

しばしば指摘されている通り、モダンダンス部門では、多くの出場者が定番ステップを披露する。両足を180度以上に上げた跳躍、脚を高く蹴り上げて静止……といった動きに既視感を持っている方は少なくないだろう。

ダンサーの技量を審査するコンクールゆえ、わたし自身、高難度の振付を確実に踊りこなす出場者には高得点を付した。上位入賞者達は、誰もが見事な技術の持ち主だった。しかし、そのように採点することによって、モダンダンスという表現の幅が狭まってしまっているのではないかと、この懸念も生じ、コンクール風という枠を飛び越えた作品を見る喜びは格別だった。必ずしも高得点につながらなくても、印象に残る作品があった。

また、決選進出者50人のうち、男性は2割弱と少数だったものの、どうしてもこれ

評 モダンダンス 1部

舞踊評論家 上野房子

高校卒業以上の男女が出場するモダンダンス2部の審査を拝命した。ジャンルは問わず、成人部門を審査するのは、わたしは初めての経験で、ジュニア・児童部門との違いは実に興味深いものだった。

年少者を審査した際には、コンクール出場にあたって彼女が指導者として過剰な時間の蓄積を感じることが多かった。彼女(彼ら)指導者が、二人三脚でコンクールの舞台で踊っているように見えたのだ。演技の主語が「私」というよりも、私選に近い「私」をいばいばいだろうか。

モダンダンスの出場者も、もちろん、指導者の下で入念にリハーサルを重ねてい

た。しかし、そのように採点することによって、モダンダンスという表現の幅が狭まってしまっているのではないかと、この懸念も生じ、コンクール風という枠を飛び越えた作品を見る喜びは格別だった。必ずしも高得点につながらなくても、印象に残る作品があった。

また、決選進出者50人のうち、男性は2割弱と少数だったものの、どうしてもこれ

た。しかし、そのように採点することによって、モダンダンスという表現の幅が狭まってしまっているのではないかと、この懸念も生じ、コンクール風という枠を飛び越えた作品を見る喜びは格別だった。必ずしも高得点につながらなくても、印象に残る作品があった。

また、決選進出者50人のうち、男性は2割弱と少数だったものの、どうしてもこれ

モダンダンス

2部 児童の部

- 第1位 埼玉県舞踊協会賞・県知事賞 橋本千穂・津田郁子賞(一社)現代舞踊協会 井上萌美
- 第2位の1 埼玉県舞踊協会賞・県議会議長賞 川西凜空
- 第2位の2 埼玉県舞踊協会賞・県教育長賞 大塚果歩
- 第3位の1 埼玉県舞踊協会賞・県文化団体連合会会長賞 清野まなび
- 第3位の2 埼玉県舞踊協会賞・県文化団体連合会会長賞 工藤 陽
- 第3位の3 埼玉県舞踊協会賞・県文化団体連合会会長賞 酒井のぞみ
- 朝日新聞社賞 錦貫真南
- 埼玉新聞社賞 吉岡あおい
- テレビ埼玉賞 細田凜々子
- 東京新聞賞 小川愛祐美
- 毎日新聞社賞 山田怜奈
- 読売新聞社賞 関根佳子
- チャコット賞

ジュニアの部

- 第1位 埼玉県舞踊協会賞・県知事賞 橋本千穂・津田郁子賞(一社)現代舞踊協会 鈴木泰羽
- 第2位の1 埼玉県舞踊協会賞・県議会議長賞 丹波南美
- 第2位の2 埼玉県舞踊協会賞・県教育長賞 小澤早暁
- 第3位の1 埼玉県舞踊協会賞・県文化団体連合会会長賞 塚本 響
- 第3位の2 埼玉県舞踊協会賞・県文化団体連合会会長賞 足立真珠
- 第3位の3 埼玉県舞踊協会賞・県文化団体連合会会長賞 今村 櫻
- 朝日新聞社賞 宮口真緒
- 埼玉新聞社賞 東間一貴
- テレビ埼玉賞 名雲有希
- 東京新聞賞 星 理奈
- 毎日新聞社賞 藤本 舞
- 読売新聞社賞 藤本 舞
- チャコット賞 清水理那

1部 成人の部

- 第1位 埼玉県舞踊協会賞・県知事賞 橋本千穂・津田郁子賞(一社)現代舞踊協会 大橋美帆
- 第2位の1 埼玉県舞踊協会賞・県議会議長賞 山本 裕
- 第2位の2 埼玉県舞踊協会賞・県教育長賞 水野多麻紀
- 第3位の1 埼玉県舞踊協会賞・県文化団体連合会会長賞 渡部 萌
- 第3位の2 埼玉県舞踊協会賞・県文化団体連合会会長賞 田中麻友美
- 第3位の3 埼玉県舞踊協会賞・県文化団体連合会会長賞 西岡 翼
- 朝日新聞社賞 菅原はる菜
- 埼玉新聞社賞 伊藤有美
- テレビ埼玉賞 小室真由子
- 東京新聞賞 鈴木泰介
- 毎日新聞社賞 藤村浩平
- 読売新聞社賞 森川瑠子
- チャコット賞 柴野由里香

創作舞踊

創作舞踊部門

- 第1位 埼玉県舞踊協会賞 富士奈津子
- 第2位 埼玉県舞踊協会賞 原島マヤ
- 第3位 埼玉県舞踊協会賞 川村真奈
- 第4位 埼玉県舞踊協会賞 久住亜里沙
- 第5位 埼玉県舞踊協会賞 藤井淳子
- 第6位 埼玉県舞踊協会賞 松元日奈子

モダンダンス 2部 (児童)



今回の埼玉全国舞踊コンクールで1位をいただいたことをとても嬉しく思います。まだまだ未熟な私ですが、これからはこの賞をバネに自分の欠点と向きあって、毎日の練習に励んでいきます。ありがとうございました。

モダンダンス ジュニアの部



埼玉コンクールという大きな舞台で輝かしい賞を頂けたのは、先生方のご指導、家族や仲間への支えがあったからだと思います。今後も感謝の気持ちを忘れず、一人でも多くの方に感動してもらえるダンサーになりたいです。

モダンダンス 1部 (成人)



このような素晴らしい賞を頂けたことは、今まで応援してくださった皆様へ何か恩返しができただけで、大変嬉しく思っています。これからも感謝の気持ちを忘れずに精進して参ります。本当にありがとうございました。

創作舞踊部門



この度は身に余る賞を頂き、驚きと喜びと感謝の気持ちで一杯です。私を教導してくださった先生と、最後の瞬間まで共に進み続けてくれた仲間たちや、支えてくださる方々のお陰様で、この雨夜譚を創り踊ることができました。

工 ツセイ

趣味で俳句を始めて二十年になる。せっかく舞踊の仕事に携わっているのだから、踊り手や稽古場の風景を詠みたいと思うが、これが中々むずかしい。あまりに身近過ぎて客観的になれないからだ。稽古場に大寒の日の当たりたるコート脱ぎセーター脱げばバレリーナオオミズアオ蛾ハレエスタジオにて死せり

沢山作った中で、ましなのは、せいぜいこの三句かなと思う。一年に一度、所属している俳句結社のコンクールがある。二十句出して、審査員の選を受ける。今まで五回挑戦し、入賞2回、二位が一回。一位をとるのは至難の業だ。コンクールなどは嫌いという人もいるが、私は好きだ。舞踊コンクールも、同じだが、出品する過程が楽しく、それによって大きな力をつける。そして、賞を獲得して、それで終わりではなく、そこから本場の出発という点でも俳句と舞踊はよく似ていると思う。

志保野ひろみ

第4位の久住亜里沙(水原下)の上に立つ、第5位の藤井淳子(反骨)、第6位の松元日奈子(夕方の隣人)もそれぞれに充分な手応えを感じさせる佳作だった。埼玉舞踊協会コンクールの創作舞踊部門では、第1回から日本の題材を新しい舞踊の動きと調和させた地道な作りが上位を占めてきた。この流れは、戦前から続く日本の現代舞踊につながっている。ここに蓄積されたものを充分に発揮させて世界へ発信したら、なほと夢をしてみよう。

初日楽日とも舞踊批評家をはじめ舞踊関係者および先輩舞踊家多数のご来賓に恵まれ、打ち上げパーティーでは作品のご感想をたくさん頂戴しました。実り多いフレッシユなダンス公演となりました。

編集後記 2015年春、夏、日本各地で天候不順に悩まされ、暑い夏を乗り切りました。協会行事「埼玉全国舞踊コンクール」(ステージ1)無事終了、次の催し物に向け協会員皆様方からの協力、お願い致します。 広報部 笠原上珂子 山本教子

佐多達枝 松崎すみ子 藤井利子 木全善男 彩の国さいたま芸術劇場 大ホール 048(645)6551 彩の国さいたま芸術劇場 大ホール 048(255)6447 窪内絹子 川口総合文化センターリアメインホール 048(255)6447

35周年記念コンサート 足袋nce@能楽堂 「茸」(くさびら) 2015.11.1(日) 16:00~ こしがや能楽堂

協会員催し物のご案内 2015年10月~2016年4月 「おみやげ舞協会」第10回公演(有料) 11/8(日) 13:30 彩の国さいたま芸術劇場 大ホール 048(645)6551 彩の国さいたま芸術劇場 大ホール 048(255)6447 窪内絹子 川口総合文化センターリアメインホール 048(255)6447

35周年記念コンサート 足袋nce@能楽堂 「茸」(くさびら) 2015.11.1(日) 16:00~ こしがや能楽堂

埼玉県芸術文化祭地域文化事業 第42回ステージ1盛会裡に終了! ステージ1担当 アキオキムラ